

奥越高原青少年自然の家(1/2)

とりのが
大自然



福井県立奥越高原青少年自然の家

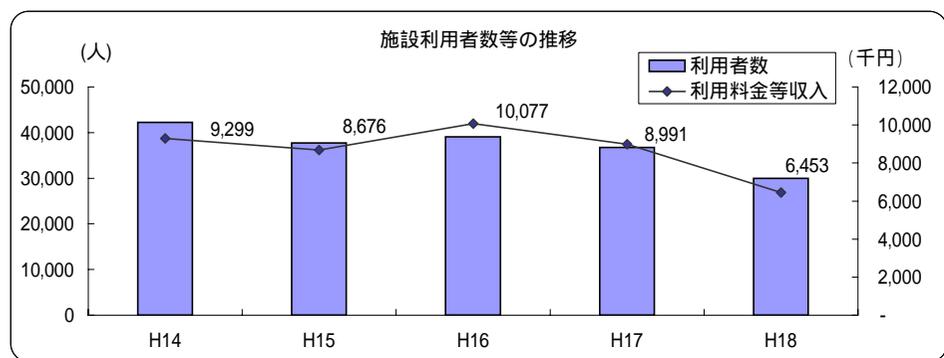
所在地	大野市南六呂師169-8		
設置年月日	昭和47年1月5日		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造3階建延7335.93㎡ 宿泊室(350名)、研修室(洋2、和2)、多目的ホール、体育館、スキー用具室、キャンプ場3箇所(428名)		
職員数	職員13人		

利用状況等

	H14	H15	H16	H17	H18
利用者数(人)	42,268	37,703	39,085	36,758	30,005
利用率(%)	30.2	26.4	27.4	25.1	20.5

利用者負担(利用料金)等

宿泊棟 利用料	26歳以上	1,100円
	26歳未満	620円
	高校生	470円
	小・中学生	310円



利用状況の推移	利用者数は平成14年度の約42,000人をピークに減少が続いています。特に平成18年度は、スキーシーズンに降雪が少なかったため、利用者数が18.4%と大幅な減少となりました。
---------	---

施設の特徴

勝山市と大野市にまたがる奥越高原県立自然公園の標高600mに位置し、周囲にある経ヶ岳を中心とする山と溪流、隣接する六呂師スキー場を利用して野外活動が体験できる山岳型拠点施設です。

- ・宿泊棟は最大350人が利用できる大型の施設です。
- ・キャンプ場は3カ所あり、初心者から上級者までレベルに合わせた利用が可能です。
- ・近隣には、県自然保護センター、県奥越高原牧場、ミルク工房奥越前などがあり、四季を通して大自然の中でさまざまな体験活動ができます。

もりっ子ハイキング教室



サマーチャレンジ教室



ファミリーキャンプ



白銀のつどい



奥越高原青少年自然の家ホームページ

<http://info.pref.fukui.jp/syougak/okuetu/hp-1.3/index.htm>

平成18年度の特徴について

事業実績	<p>子どもたちが6泊7日の体験学習を行うサマーチャレンジ教室を2回開催しました。参加者、保護者の約75%から「自分のことは率先して行う」「友達と協力する」「自然を大切に」など成長がみられたとの意見がありました。【延参加者数:80名】</p> <p>ファミリーキャンプ・ジュニアサマーキャンプ・合宿通学・紅葉登山・白銀のつどい等、奥越高原の豊かな自然を活かした主催事業を開催しました。【延参加者数:479名】</p> <p>『もりっ子教室』として『星空オウツング』、『ハイキング教室』、『たべもの教室』(魚つかみ&空き缶飯、ソーセージ、くんせい、おにぎりづくり)を各4回開催しました。【延参加者数:237名】</p> <p>キャンプカウンセラーの養成事業を実施しました。企画力を身につけるため、カウンセラー自身によるステップアップ研修を3回開催しました。【延参加者数:73名】</p>
------	--

奥越高原青少年自然の家(2/2)

行政コスト計算書(平成18年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	129,441	52.5%	95.7%
	退職給与引当金繰入	7,045	-2.9%	-
	計	122,396	49.6%	90.2%
物にかかるコスト	物件費	55,584	22.5%	94.0%
	維持補修費	9,350	3.8%	131.5%
	減価償却費	54,485	22.1%	100.0%
	計	119,419	48.4%	98.9%
その他	公債費(利子)	3,667	1.5%	45.4%
	その他	1,147	0.5%	1398.8%
	計	4,814	2.0%	58.9%
合計		246,629	100.0%	93.2%
収入	利用料等収入	6,453	2.6%	71.8%
	その他収入	501	0.2%	74.7%
	一般財源	239,675	97.2%	94.0%

バランスシート(平成19年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	2,135,160	97.5%	固定負債	174,720	77.9%
うち土地	1,879	100.0%	うち起債残高	71,305	62.6%
うち建物	2,119,314	97.5%	うち退職手当引当金	103,415	93.6%
投資等	0	-	流動負債	42,628	48.9%
流動資産	0	-	正味資産	1,917,812	102.1%
計	2,135,160	97.5%	計	2,135,160	97.5%

主な指標 (単位: %, 円/人)

	H18	H17	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	2,609	2,667	97.8%
県民1人あたり将来負担額	213	273	78.0%
世代間負担率	89.8	85.8	104.7%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>人にかかるコストは、18年度から職員が1名減ったため、9.8%減少しています。</p> <p>物にかかるコストは、庁舎修繕(2,734千円)等を行ったため維持補修費が31.5%増加しましたが、物のコストの半分を占める物件費の節減により、前年度比1.1%の減となっています。</p> <p>行政コスト全体では、前年度比6.8%の減少、県民1人あたりの負担額も5.5%減少しています。</p> <p>なお、施設利用者が引き続き減少傾向にあり、利用料金等収入は28.2%減少しています。</p> <p>資産は建物がほぼ100%を占め、減価償却分だけ前年度から資産が減少しています。</p> <p>設備の充実と収容人員の拡大のため、平成7および9年度にかけて宿泊施設の全面改築を行いました。</p> <p>この際に約20億円の借入れを行いました。18年度末残高71百万円まで償還が進んでいます。</p> <p>なお、償還のピークを超えたことから、18年度の償還額は前年度比51.1%減少しています。</p> <p>他地区の青年の家等と比べ、施設が新しく資産規模も大きいことから県民1人あたり有形固定資産額が大きく、起債の償還も残っていることから、県民1人あたり将来負担額も大きくなっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>施設の維持管理や主催事業等の実施 (主催事業は職員の日常業務として実施) [H19予算額: 約66百万円]</p>
今後の課題	<p>利用者数は5年間で30%減少し、利用率も20%に落ち込んでおり、利用拡大を図っていく必要があります。</p> <p>立地条件を活かしたアウトドア活動が施設の特徴ですが、利用状況が天候に左右されやすい欠点があります。</p> <p>さらに、利用者の多くはスキー客であることから、冬場に比べ、他の季節は利用状況が低いことから、年間を通じた利用客の増加を目指す取組みが必要です。</p>
今後の事業方針取組み内容	<p>風景豊かな山間・林野・原野の恵まれた立地条件と、周辺一帯の活動資源を最大限活用し、登山・キャンプ・ハイキング・魚つかみ・オリエンテーリング等幅広い体験の場となるよう取組みます。</p> <p>また、天候に左右されない環境・食・社会奉仕の3つに力を入れた体験メニューを取り入れ、実施事業の充実を図ります。</p> <p>学校訪問を積極的に行うほか、ホームページや広報誌を利用した広報活動を行います。</p>

